

ある表記体系での文字を別の表記体系での文字に変換することを翻字 (transliteration), ある表記体系での文字を別の表記体系で同じ発音をもつ文字に変換することを翻音 (transcription) と称する (ISO 5127:2001, JIS X 0701:2005)。前者では文字と文字とを厳密に対応させるから、変換したあとでももとに復元することが原則として可能である。しかし、後者では復元はきわめて困難である。日本ではラテン文字による日本語表記をローマ字化と称しているが、ローマ字という表現は国際的には通用しない (ローマン体 (roman type) はイタリック体 (italic type) に対比する書体とされている)。日本語の場合、「は」は「ha」に変換するが、助詞の「は」は「wa」に変換する。前者は翻字であり、後者は翻音である。JIS規格 (ISO 規格) では、このような変換法をローマ字化 (romanization) と称し、「翻字, 翻音, またはこれらの併用によって非ラテン文字表記をラテン文字で表記すること」という定義を与えている。

韓国語・朝鮮語の表記に使用されているハングルのラテン文字化は翻字で、相互に変換することが可能である。漢語 (中国語) の表記に使用されている漢字のラテン文字化 (ピンイン表記) はローマ字化で、漢字への復元はできない。

日本文字のローマ字化は、ポルトガルの宣教師によって創始され、代表的な刊行物は“日葡辞書” (1603) とされている。江戸時代末期に来日した J. C. Hepburn が編集した“和英語林集成” (1867) に使用された変換方式が、のちに一部修正されてヘボン式として普及することになった。ヘボン式は英語での発音に準拠したものであったから、日本人の手で音韻論に基づく日本式が開発され、敗戦をはさむ紆余曲折を経て、1954年に内閣告示第1号 (内閣訓令第1号) として制定された。これが訓令式 (第1表) である。しかし、内閣告示では「国際的關係その他、従来の慣例をにわかに改めがたい事情にある場合には」という制限つきでヘボン式 (第2表) の使用を認めた。

ISO が日本語のラテン文字表記を国際規格とすることを検討課題としてとりあげたのは、1962年にパリで開催された ISO/TC46 総会の場合であった。アメリカから提出された規格案はヘボン式であったが、日本政府は訓令式が唯一のものだと主張し、ヨーロッパ勢の後押しもあって、結果的には訓令式が国際規格 (ISO 3602:1989) となった。訓令式は官庁での使用を拘束するものだが、訓令式に移行したくない政府機関 (外務省, 経済産業省など) はあいかわらずヘボン式の使用を続けている。結果として、日本語のローマ字化 (ラテン文字表記) は標準化されていないといえる。

かな文字→ラテン文字 (ローマ字化)

訓令式 内閣訓令第1号 (1954) 第1表, ISO 3602:1989
ヘボン式 内閣訓令第1号 (1954) 第2表
国立国会図書館 (JAPAN/MARC) (訓令式, 長音記号をつけない) 表記要領 (2002)

学術用語集 (訓令式) 文部省大学学術局情報図書館課 (1974-01)

旅券 (人名) (ヘボン式) 旅券法施行規則 (外務省令, 1989-12-08)

駅名標示 (ヘボン式) 運輸省通達 176, 1947-07

地名標示 (ヘボン式, 長音記号をつけない) 国土地理院長達 34 (2004-11-11)

現在のローマ字化の事例:

地名 JAPAN/MARC: Tokyo, Sinbasi, Sin'okubo

地図: Tokyo, Shinbashi, Shin-okubo

駅名標示: Tôkyô, Shimbashi, Shin-ôkubo

人名 Ota (旅券では Oota, Ohta も認める),

Takato (旅券では Takatoo も認める)

参考までにその他の国際規格を挙げておこう。

ハングル→ラテン文字 (翻字)

ISO/TR 11941:1996 Method I および Method II がある。韓国では「国立国語研究院方式」が使われている。

漢字 (中国語) →ラテン文字 (ローマ字化, 拼音表記)

ISO 7098:1991 基本的規則のみを収載, 漢字と拼音との対応は「新華字典」, 「現代漢語詞典」などを参照
タイ文字→ラテン文字 (翻字)

ISO 11940:1998, 11940-2:2007

インド文字 (Devanagari など, インド, ネパール, バングラディッシュ, スリランカで使用) →ラテン文字 (翻字)

ISO 15919:2001

アラビア文字→ラテン文字 (翻字)

ISO 233:1984, 233-2:1993; 233-3:1999

ヘブライ文字→ラテン文字 (翻字)

ISO 259:1984, 259-2:1994

グルジア文字→ラテン文字 (翻字)

ISO 9984:1996

アルメニア文字→ラテン文字 (翻字)

ISO 9985:1996

ギリシャ文字→ラテン文字 (翻字)

ISO 843:1997

キリル文字→ラテン文字 (翻字)

ISO 9:1995

参考資料: 菱山剛秀. 地名のローマ字表記. 国土地理院時報. 2005, no.108, p.65-75.

(太田泰弘)